



ゆんたく 都島

2013 Vol.19

都島

Contents

理事長 巻頭メッセージ

特集1. 私たちの園を紹介します 一児童発達支援センター 都島こども園一

特集2. よりよい保育環境に向けての各園の取り組み

report 都島友の会 法人内研修

地域とともに/こんにちは! ひまわりです。

/ひまわりネット連載コラム③/ゆんたくニュース



つなぎ つないで 82年
 みわらび みやい
 美童の殿堂あらたに 建ちにけり

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

正式な住所で申せば、大阪府都島区都島本通3丁目4番3号、となるでしょうか。信号のある交差点近くに立つて、見上げてみてくださいます。

私どもの『こどもの殿堂』と当社社会福祉法人都島友の会本部棟(法人の要です)が、装いもあらたに贅え建つ姿をご覧いただけます。

都島の地に福祉の種が蒔かれて82年。その間4度の建て替えがありました。今回で5代目となる建物です。4代目の建物も斬新なものでしたが、敷地の地盤が悪かったこと、昭和47年高度成長時代の建造物ゆえの、塩害による鉄筋の劣化、錆やコンクリートの落下、さらには阪神淡路大震災時のひび割れ、一部の傾きなど、40年にわたる風雪で、ついに大型補修を施しても限界に達しました。耐震補強申請も考えましたが、子どもたちの安全、安心、快適を第一義と考え、この度、国、大阪市への建替え補助金申請をし、幸いにも受理、許可されました。

5代目の建物は敷地を広く取り、建物は大震災に耐えうる堅牢性、そして何よりも至る所に子どもたちへの夢が詰まっています。すべてのものを包み込む包容力と先進性、威風堂々とした風格や重厚さを備えた、いつまで見ても見飽きぬ立派なものになったと自負しております。道行く人も立ち止まり、見上げると、「すごいなあ」との感嘆の声、やはり嬉しいものです。

園舎を一周すると横長に伸びた敷地の大きさがうかがえます。外溝の緑化はシックな色調の建物とマッチし、木々の緑も1年1年さらに青々と美しさが増していくでしょう。この敷地の広さは建替えに当たり、南隣接

けとめてくれます。さらに奥に進むと天然の芝コーナーに小川のせせらぎ、川にしつらえた小魚たちのお家、水仙鉢の水草の中をそとどぞくとメダカにザリガニ、カメさんフナさんたちが気持ちよさそう…。ピオトープには、春にはタンポポ、萇、季節が巡って小手毬に山吹、ネコヤナギ、紅白の木蓮、ハナミズキ、サクランボに蜜柑、ピワと、季節の花や実がなつてくれるでしょう(9月21日の竣工式には、園花ヒマワリが咲き誇る予定です)。

の鈴木家、福田家からの「子どもたちのために」とのご厚意による土地の譲与があった賜物です。その御蔭で敷地は従来の1,400㎡から約2,200㎡と約2倍近くになり建物の大きさとともに運動場が格段に広がったことが喜びです。



では建物を紹介いたしましょう。信号側角に身障者専用駐車場があります。その南奥壁面には、都島友の会の関係者と園児1,000名が作った陶板を貼りました。1枚1枚、一人ひとりの個性や人柄、人間の素晴らしき能力に見惚れまします。正面から2階を見上げると、2頭の堂々としたシーサーが鎮座し、その両サイドにはユニークな顔をしたシーサーが5頭ずつ(計10頭)、子どもたちや私たちを見守るように座ってくれています。

正面玄関にお入りください。まず皆様をお迎えするのはウエルカムツウMJCホールにあるショーケースです。青々とした南国の海、椰子の木、太陽、カモメ、その下には南国の貝が敷かれています。玄関で靴を脱ぎ上がっていたらととショーケースの南側には乳幼児300名のシューズコーナーがあります。



道具入れです。でも遊び道具を出してしまうと、今度はかくれんぼやままごと遊びができる子ども部屋に早変わり…。運動場には砂場あり、畑あり、さあ何を作って遊びましょうか?泥んこになった手足の洗い場、遊んでもすぐに行けるトイレ、太陽のもとで、木陰の涼しさの中で、子どもたちにとっては保育室に入らずとも1日を謳歌する探検の場、冒険の場になることでしょう。

今度は手足を洗ってMJCホールに戻り、靴を収納いたします。MJCホールには中央左右対称に事務室(園長、副園長室)と職員室があります。ショーケースの前を通り、今度は西に進むと、広いおしめ交換台、その南側には保護者の皆様の休憩コーナー(ちょっと休んでください。今日も1日お疲れ様でした)です。さらに進むと大きな部屋、広い広い海、オーラ・ポート(港)が待ち構えます。部屋の真ん中にはドーンとウッディな船のオブジェが鎮座して。船の中はキッチン、お部屋さん、ロビーに滑り台、寝室、子ども部屋、何やら不思議なワンダーランドです。船上のデッキから見上げると何が見えるか?そこには抜けるような青空が…!?



さあ、ここからは裸足でお歩きください。事務室を横切り東に進むと、ピロティホールです。乳幼児遊具(汽車)や大型遊具、子どもたちが裸足で歩き走り回ってもホールに敷き詰められたぶつぷつは足の裏に心地よく、ピロティは直射日光も防ぎ、雨の日も風の日も気にすることなく存分に遊べます。



脇に立つ昭和25年に植樹され63歳になった楠木の記念樹は、建築期間中ずっと工事の安全を見守り続けてくれました。どうしりとした面構えで立つ楠木の大きな幹には小鳥たちのために巣箱を取り付け、これからは小鳥の囀りと共に子どもたちの大きな歓声が届くことでしょうか。楠木の周囲にはカラフルな円形ベンチを設けました。遊び疲れた子どもたちもちょっとここで一休み、という訳です。

ピロティホールから続く屋外には裸足で遊べる広場やデザイン性に富んだ大型遊具、移動鉄棒と続き、そこには目にも優しいふかふかの人工芝が広がります。転んでも痛くないことはもちろん、寝転んでも飛び跳ねても厚さ5センチのクッションが子どもたちを心地よく受

う。今度は乳児さんたちのための世界、小さな島に浮かぶ森の世界です。小さな小さな子どもたちはここでいったい何を体験し何を学んでいくのでしょうか?果てしない想像力や創造性、あるいは人や世界を幸せにする力強い冒険心?通常の保育室では体験できないような一人ひとり、それぞれの夢見る力がきつと子どもたちの心に育まれることと思います。乳児たちの夢見るお部屋を左(南側)に抜ける。そこは法人本部棟、キッチンルームと法人本部棟の玄関へとつながります。もう一度MJCホールに戻ってみましょう。正面玄関には、登園時降園時には必ず押してもらう『タッチパネル』が設置され、コンピューターに一人ひとりの子どもたちの出席状況がカルテのように記録されることとなります。

今度は2階階段を上ります。階段の壁面には、誕生から乳児幼児と日々成長していく姿が描かれています。2階の東突き当りの部屋は0歳児室、部屋には一段高い畳コーナーが設けられ、その下は便利な収納庫、東側のベランダからはふかふかした人工芝の広場やピオトープ、「みまもりの像」「なかよし像」、大きな楠木も見渡せます。沐浴室、オマルコーナー、調乳室と続いて、



1歳児2室も大変広く、相互に交流しやすい構造ですが、クラスごとのプライベートスペースは保たれ、また部屋の中には機能的で美しく安全面でも留意した収納庫など、そこかしこに子どもたちへの配慮と行き届いた知恵が隠されています。

洗濯場、物干し、南側からの採光は広く明るく、まっすぐに伸びた長い廊下には乳児図書コーナー、トイレ、さらに進むと2歳児2室、3歳児2室と続きます。成長に合わせた午睡ベッド、収納庫や一人ひとりの個人ロッカーは自他の



の区別を意識させ、持ち物の大切さを学んでいく手がかりです。知的発達とともに、思いやりの心が芽生える大切にしていきたい時期です。3歳児室は子どもたちと大人の出入り口の高さを変えてみました。子どもたちの視線に戻ってちよつとくぐってみましょう。3歳児の部屋を過ぎると建物西端となり、本部署

さてさてその4階に上がりましょう！ランチルーム横の階段を上ればそこに大きなホールが出現します。体育、音楽、演劇、イベント行事、研修、何でもできます。広い舞台、緞帳、内幕、一文字幕、音響、オーディオ、照明や舞台花道、裏道、控室、舞台上の葡萄棚（實の子（すのこ）に至るまで、設備は一般の最新ホールよりしく完璧に整えました。舞台に立ち二芸を発表するもよし、オーディエンスとして大切なものをここから吸収するもよし。ここは大人も子どもも一人ひとり何かを発見し、次のステップへとジャンプアップできる発見の場。ディスカバリーホールの愛称を付けました。どうか皆さんがここから晴れやかに飛び立たれんことを！と願います。



ディスカバリーホールを出て東に向かってください。左手は大きな収納室、右には鮮やかなブルーのトイレがあります。そして目の前にある扉を開けるとそこは見晴かすな景色、そら、太平洋の大海原！！です。真っ青な青空の

理棟に突き当たります。法人本部の指令塔（総務、財務、人事）、そして法人82年の歩みを残した資料室、会議室が並びます。

3階に上がりましょう。2階から3階への階段壁面には3歳から4歳5歳と成長する姿が描かれ、3階は東側から5歳児2クラスが続きます。保育室入口は5歳児用のドアと大人用が2つあり、室内は窓も大きく気持ちも広々する環境です。5歳児は保育生活最後の仕上げ。小学校へのつながりを踏まえ、元気に健やかに、個性を尊び、

集団に溶け込み良い仲間づくりができるように、知育、徳育、食育と全人的な発達を大切にしていきたいです。広くまっすぐな廊下は明るくまるで広場感覚。部屋では味わえない解放感に満ち溢れています。廊下を西へと歩くと、今度は子どもたちが思う存分自由に過ごせる絵本の広場「森の泉」があらわれます。座っても寝転んでも、友達同士絵本を読みあつてもよし、思い思いの感性を伸ばやかに広げるイメージーションスペースです。廊下を挟んでパステルカラーの幼児用のトイレがあり、さらに進むと4歳児の部屋が2クラス続きます。クラスを超えて互いに交流できる工夫や配慮が施された子ども用の専用ドアをはじめ、どのドアにも指詰め防止を施すなど、安心・安全への対策は万全です。



下、大海原に帆を翻した海洋船が進みます。船上には幼児用のプールと乳児用のプールが並び、船首には先代の児童センターの屋上に掲げられた法人のシンボル、太陽の塔のオブジェが誇らしげに輝いています。西の壁面には珊瑚や南洋の可愛いお魚さん達が泳いでいます（子どもたちが頑張つて描いてくれました）。南面にはトロピカルアイランド、椰子の木、バナナの木、小動物が遊んでいます。さらに屋上庭園としてオリブの木を植えました。もう一つの壁面には「この木なんの木、気になる木」と歌に出てくる大樹や、小鳥たち、動物たちが



3階の西端には自慢のランチルーム「おおむしルーム」があります。240名の園児、24名の大人が一斉に食事ができる大スペース。食事をするテーブルや椅子は「たもの木」で造られたクラフト作家の工芸品。他にも園内の木枠、窓枠、戸すべてに目にも美しい「たもの木」が用いられています（この木は最近日本のものは希少となり、ロシア、中国原産なのが少し残念です）。食事の際、園児の座る椅子は自分の身長に合わせてチヨイスできるなど、機能面、美観面にも最新の心配りをしたちよつと贅沢なランチルーム。配膳室も広く取り、食べる喜びや食べることの大切さ、食する美しさやマナーの大事さ、食への感謝も体感できるよ

うにと考え作りました。主に3歳、4歳、5歳児が利用しますが、2歳児も保育室での食事から早くランチルームで昼食が取れるまで成長すれば、と思っ

ています。食事はアレルギー食にも十分に配慮し、安心、安全、そして美味しく楽しく！がモットーです。ランチルームのベランダでは水耕栽培に取組み子どもたちが食物のできていく様をつぶさに学んでいきます。部屋には日本の子どもたちが過去遊んだ玩具がシヨーカーズの中に時代ごとに展示、ちよつとしたミニ玩具博物館の趣です。またランチルームは3つのパティーションで区切れば多目的スペースともなり、スクリーンを設置す

○おおむしルーム（ランチルーム）のことを…

「ほんま、レストランやなく」「みんなでごはん食べれるし、ええなあ！」

○母親に向かって…

「屋上が、屋上が、屋上がすごいっ！！」

新園舎を見て、「保育園やあらへん！」と驚いて言った子もいると聞きました。子どもたちの豊かな感性に新園舎がどのように映っているのか、どんな心の響きをもたらせていくのか、本当にこれからの楽しみが楽しみです。

最後にになりましたが、私どもに広い敷地を提供賜りました鈴木様、福田様、本当にありがとうございます。国や大阪市、行政関係の皆様、御礼申し上げます。また都島児童センター新築にあたり、設計から完成に至るまで、豊富な経験と優秀な技術をもって、私どもの夢と理想をそれ以上のカタチで叶え、また我儘や無理な願いも快くきいていただいた、株式会社藤田茂信建築設計事務所、株式会社藤木工務店、監督松下公昭様、野口義文主任、そして多くのスタッフや関係者の皆様、完成に至るまで延べ20,000名の皆様のお力と英知をお借りいたしました（業務に携わった方々の中には卒園生の方もいらしたとのことです）。心より御礼申し上げます。

もたちの声もご紹介しておきましょう。

○女の子がモクート（乳児延長保育室）を見て…

「あんなところに、妖精がおるでえ！！」

○オーラポート（幼児延長保育室）で遊ぶことも達は…

「海賊船に行こー！！」（子どもたちの間ではいつもまに海賊船になったよっす）



こども園では、個別療育や個人懇談を大切に考えています。

月に約1回個別に時間をとり、集団の中では取り組みにくい一人ひとりの課題に取り組んでいます。保護者にも入っていただいて、具体的なアドバイスや相談をお受けする場にもなっています。

個別療育って？

子どもたちとコミュニケーションをとる中で大人の関わり方はとても重要です。子どもと大人と一緒に遊ぶ様子を撮影し、ビデオを使いながら見落としがちな子どものサインや意図（気持ち）を分析、子どもの思いに的確に反応できることを目指して取り組んでいます。

インリアルアプローチ



職員は毎月1回、2年間勉強会に参加しています。
資料：大阪府立大学 インリアルアプローチ 研修会
▲保護者とビデオ分析をしています。

ポーター早期教育プログラム

アメリカ・ウイスコンシン州ポーター市で0歳からの発達に遅れや偏りのある子どもとその親のために開発されたプログラムです。指導技法に応用行動分析という心理学の原理を用いて一人ひとりの子どもの発達に合ったアプローチをしています。



保育園や地域との交流

隣接する都島東保育園と交流する機会を設けています。こども園に遊びに来てもらったり、保育園に遊びに行きながら、給食を一緒に食べる、一緒に遊びを経験するなどして、仲良くお友だちになったり、保育園児にとってもこども園の子どもたちと知り合う良い機会になっています。



同園会まつり



年に1回行っている同窓会です。在園児はもちろん、卒園された方も再会できる場でもあります。地域の方にも参加していただき、こども園を知ってもらう機会となっています。ゲームコーナーやミニバザー、食べ物販売ありと皆様に楽しんでいただいています。

親子療育「あっぷる」

在宅の方を中心に通っていただいています。



平成24年度から始めた、新しい取り組みを紹介します。

保育所等訪問支援事業

保護者からの申し込みで保育園・幼稚園に訪問し、障がいのある子どもの支援についてアドバイスしています。月1〜2回ほど子どもが所属する園を訪問しています。



相談支援事業

障がいをお持ちの本人、家族の方がその人らしく生活を送るために必要な福祉サービスを利用できるようにサービス利用計画を作成すると共に、いろいろな相談を受けています。



※相談支援については実質保護者負担はありません。

都島こども園の利用について
施設を利用するには障がい児通所受給者証が必要です。まずは区役所にご相談ください。

●費用
利用日数により支払金額が決まります。サービス提供にかかった費用の1割が保護者負担金額となりますが、実費は受給者証に記載されている負担上限額（0円、4,600円、37,200円の3区分）により異なります。給食費等の費用は別途お支払いただけます。

詳しくは → <http://www3.ocn.ne.jp/~kodomoen/>

これから私たちが子どもたちの育つ力を大切に、一人ひとりの可能性を伸ばやかに広げていきます。

児童発達支援センター 都島こども園



私たち都島こども園は、発達にさまざまなもった2歳から就学前の児童の通園施設です。日々の生活や遊びの中で、人との関わりを通して情緒の安定を図り、早期療育の場として子どもたちの心身の発達を支援していくことを目的としています。私たちは子どもたちに寄り添って、子どもの可能性を最大限に引き出し、一人ひとりの子どもやそのご家族との対話を大切にしながら、生活経験の場を広げ、豊かな発達を促していきたいと考えています。

一日の流れ



毎日の絵本読み、大好き



10:00

登園

バスまたは保護者と直接登園します

朝の会



バスのお出かけもあるよ。楽しいな



11:00

設定療育



中庭ができました!

安全な場所で子どもたちもおはしゃぎ!!



12:00

給食

おいしいなあー



12:30

自由あそび



プレイルームも充実!

楽しく遊べて、運動になる遊具がふえました。



14:30

降園

スイング



トランポリン

親子通園

こども園では、週1回(月2回)、親子通園を行っています。職員や他の保護者の方の接し方を見ることが子どもとの関わりや遊び方、集団生活の中で我が子を知る機会となつていきます。また多くの方との意見交換を深めることで、保護者の方々が子育てに関して自信と自覚をもって頂けるように取り組んでいます。



単独通園

子どもにとっては初めての集団生活、お母さんと離れても安心してのびのび遊べる場でありたいと考えています。子どもの発信するサインに適切に対応することでコミュニケーションの楽しさを知り、子どもたちが自信を持って自ら進んで行動しようとする自立的な子どもになつていくことをねらいとしています。



絵本
コーナー

貸出絵本コーナーは絵本を陳列する代わりに絵本カードを並べています。読みたい絵本があればその絵本カードをピックアップ、いつでも貸出できるシステム。みんなの大切な絵本が傷まないように、限られたスペースを有効に使える知恵と工夫の、自慢のコーナーです。

都島友渕乳児保育センター



都島東保育園

男性職員は
力自慢腕自慢

都島東保育園の男性職員は力仕事、大工仕事、今まで業者さんに頼んでいた日曜大工程度の仕事なら朝飯前。'Do It Your Self!'が信条です。



【食育】を楽しんでいます。今年のお米は「コシヒカリ」と「ニホンバレ」です。



都島桜宮保育園

毎年夏には保護者の方々に協力いただいで大掃除をしています。暑い中で職員が楽しみにしているのは、掃除をしながらの保護者の皆さんとのゆんたく(おしゃべり)。大いに動き大いに笑う一日となりました。



古くなった空調を今年は3台、新たに交換しました。流れ出る冷たい風に「気持ちいい〜」と両手を広げ、風を感じている子どもたちの姿のなんと愛らしいこと。

渡保育園



屋上プール

屋上のプールは「青空」とぐるっと「360°」見渡せる最高の景観。ただ子どもたちにとっては眺めなど関係なし、大好きなプールに夢中です。

美しい眺めが、自慢!

知恵と工夫を凝らして

大阪・沖縄各園の取り組み

新しくなって、美しくなって、 もっと安心・安全になってー。

安心、安全、快適、エコ…、
よりよい保育環境に向けての各園の取り組みを紹介します。

松島保育園

ゴーヤカーテンで
すずしいさー

毎年春から夏にかけて食育の一環としてゴーヤを作っています。日差しの強い沖縄なのでゴーヤの葉でカーテン作り、室内に入る光を遮断。子どもたちもその下で涼みながらゴーヤの成長を楽しむ毎日です。



エコで涼しい!

都島乳児保育センター

プレイルーム



普段は保育室と使用していますが、可動式のロッカーと扉を移動すると、ほら、こんなに広〜いプレイルームに大変身♪

1歳児クラスの子もたちが体をいっぱい動かして遊んでいます。システムブロックのお山は人気No1!! 色々な形にもなり、子どもたちの成長に合わせて組み合わせています。

都島友渕保育園

あっという間に
素敵な舞台に!



保育室を広々使えるように新しくなった舞台は稼働式。か弱い(?)保育士二人でもらくらく舞台をセッティングすることができます。



広く楽しく便利になって

成育保育園

プール用
テント!



紫外線・熱中症対策にテントを購入。痛いくらいの真夏の日差しが避けられ、プール遊びが快適になりました。運動会の練習などでも、全園児がテントの下で待機したり、しばしの休憩ができそうです。

うんと安心、快適に

都島第二乳児保育センター

みんなのサロ
「ゆいまーる」



高齢者から赤ちゃんまでの交流の場「ゆいまーる」が、7月に都島第二乳児センター3階の保育室にリニューアル移転。地域の世代間交流の場がますます楽しくなりました。

もっと地域と親密に

都島第二乳児保育センター

「まるでリッツカールトンのような保育園ですね！」

保護者からのお褒めの言葉を励みにして、
“みんながみんなを思いやる”、もう一クラス上の職員連携を目指します。

都島第二乳児保育センター 岩本 真弓



都島第二乳児保育センターでは7月23日(火)、今年度の法人内研修を開催しました。今回のテーマは「保育士間の連携」について。
都島第二乳児センターのクラス編成は1歳児1クラス、2歳児4クラス、一時保育すくすく組1クラス、他に在宅支援として「のびのび」「ゆいまーる」と2階3階に分かれ複雑な構成となっており、日頃から職員間での連携を取る難しさ、大切さを感じていたため、今回「連携」について改めて見直したく研究テーマとしました。

研修内容

連携の要である三大要素

・ミーティング (朝ミーティング・月曜ミーティング)

- 1 毎朝 8:55 から 5 分ほど、各クラスから代表者が出てその日の確認事項
一日の職員体制の確認、早急に確認したい連絡事項など
- 2 毎週月曜日 14:00 から、各クラス・事務所からの連絡事項、検討事項、研修報告

・職員ボード

(その日のクラス担当編成を図式化したもの)

・受け入れ引継ぎノート

連携から生まれてくる効果

- ・早い段階での職員全体への周知、問題提示、早期解決

朝ミーティング



職員ボード

受け入れ引継ぎノート



普段行っているその日の職員体制を実演した。
有休や研修、早出や遅出で手薄にならないように時間帯の職員の配置を確認する。



各園で行っている連携について、ディスカッションし、順番に発表した。

保護者とのやり取りの中で...

保護者から聞いていた連絡事項の伝達もれがあり、保護者に不快な思いをさせてしまったのですが、早急な対応で信頼が回復できました。その時、保護者の方から「まるでリッツカールトンのような保育園ですね」とお褒めの言葉をいただき、ふだんの連携が活かされていることを改めて実感できました。

今後の課題

●4施設の連携

8月に都島児童センターの乳児クラスが新園舎に戻ることで、今まで一緒に過ごしていたことでスムーズにできていた日頃のかかわりや連携が少し難しくなるのではないかとということで、今まで以上に意識を高く持ち四施設での連携を上手に図っていききたい。

●在宅との連携

昨年度の法人内研修のテーマであった一時保育、のびのび、ゆいまーるなど様々な在宅子育て支援事業との連携を充実させてより良い支援ができるようにする。

さいごに... まだまだ失敗や課題がたくさんあるが、少しずつの積み重ねが自然と高まる意識づくりとなり、都島第二乳児保育センターのさらなる土台作りを力注いでいきたい。

都島友渕保育園分園

Report

都島友の会

法人内研修

都島友の会では保育の質の向上を図るため定期的に法人内研修を行っています。
本年度のテーマは 職員の技能の向上、スキルアップ。職員ひとり一人の保育技術の向上はもとより、幅広い知識の習得や共有、職員間のコミュニケーションの改善など、チームとして組織として一層のスキルアップを目指しています。
今回は都島第二乳児保育センターと保健衛生部会の発表をご紹介します。

都島友渕保育園分園 看護師 江藤 治世

保健衛生部会主催訪問研修会

『出前講座』で深まる知識と理解。
訪問研修会という新たな取り組みを始めました。



▲都島友渕乳児保育センターで(7月)

今年度、都島友の会では、職員の保健衛生に対する知識と理解を深めるため、訪問研修会を実施しています。訪問研修会とは年間計画を立て、『けがの対応』『予防接種』『アレルギー』について『発熱とけいれん』の4テーマで各園を訪問、各園計4回行っていく予定で、現在も進行中です。
研修では、この園は『アレルギー...』か

ら、あそここの園は『予防接種』からと、各園で研修したい順番にテーマを選んでもらい、興味のあるような身近な内容もトピックとして入れながら、日頃感じること疑問に思うことを質疑応答のスタイルをとり看護師の立場から最新の保健情報をふまえて行っています。
研修は、業務の間に行うため、各園の都合の良い日に『出前講座』のような形で訪問し、午睡中などの時間帯に2部制で行っています。職員に1部か2部、どちらかに交代で出てきてもらうことで、ふだん保育に携わるほぼ全員の職員に受講してもらうことが出来るようになりました。より多くの職員が実際に研修を受けることで、職員の保健衛生に関する意識も高まり、「次はこの病気について聞きたい」と積極的な要望も聞かれるようになりました。また実際に起こった場面での具体的な対応についての質問も多く、相互で活発に意見交換をすることもあります。
研修の中では職員からの質問で、思いもつかないことを聞かれることもあります。
中でも印象的だったのは、感染症の下痢の時の対応として、



▲食物アレルギー対応エビペン注射の研修風景(8月)



▲都島児童センター(仮園舎)で(8月)

Q:「いまは下痢をしても下痢止めなど薬剤で止めるのではなく、出した方が良いのでヨーグルトを食べさせ方が良いのですか？」
A:「確かに下痢は止めずに出した方が良いけど、あえて腸を刺激して無理に下痢をさせるのはどうだろうか?」
思いもよらない質問に戸惑いながらも教科書通りに答えてしまいました。しかし「もしかして私が知らないだけで最新の情報?」とあわてて帰って調べましたが、そんな対応法の情報はなく、後日その園には確認して改めて返答させてもらいました。
今後さらに充実した研修ができるように内容を深めていきたいと思えます。



こんにちは！
ひまわりです。

「福祉とは」

ふ：普段
く：暮らし
し：幸せに

もうお馴染みとなっている介護保険制度ですが、「友渕地域在宅サービスステーションひまわり」がオープンしたのは平成11年2月。介護保険制度がはじまる前年に地域高齢者の在宅支援の拠点として開設しました。

もうすぐ15年を迎えようとしています。バリアフリー化してきたみなさんも年を経るとともに、さまざまな困難さがかかえることも多くなっているようです。年齢を重ねることの奥深さ素晴らしと同時に、またその厳しさも感じられていることを共有していけたらと思います。老いの心の癒しの場になれるよう心がけていきたいと思う今日この頃です。

友渕地域在宅サービスステーションひまわりは「デイサービス」「ケアプランセンター」「総合相談窓口」の複合施設となっており、友渕地域の高齢者を支えるために、毎日、施設から飛び出し相談支援などに奔走しています。

人気スポット

ひまわり自慢

ひまわり水族館

夏は特に涼を感じると皆さんの癒しスポット。

ひまわり図書館

5月に大阪市立図書館より「大活字本」寄贈があり蔵書が一気に充実。

マッサージコーナー

多種多様なマッサージ器があり充実しています。大人気でいつも順番まちとなってしまう争奪戦勃発です。みなさんの憩いの場所でありますように！

デイサービス

「デイサービス」の一日

- ミーティング
- 送迎
- お早う挨拶
- 今日は何の日：新聞拡大版配布
- 脳トレタイム
- 今月の貼り絵
- 「書道教室」「ヨガ教室」「詩吟教室」「カラオケ教室」
- 入浴
- レクリエーション・月1回のイベント



ケアプランセンター

保健・医療・福祉など介護の幅広い知識もつ4人の経験豊かなケアマネージャーが、いつでも相談にのれることをモットーにお待ちしています。専門性を活かし、介護の悩みや介護サービスの計画のケアプランをいっしょに考えています。気軽に相談に来てもらえることを心掛け、明るい対応！迅速な対応！を合言葉に！



総合相談窓口

地域包括支援センターといっしょに地域の高齢者の問題について相談に応じる事業をおこなっています。今後益々高齢化の問題は深刻になってきます。地域の力をつける必要性が叫ばれるところですので。日々町会行事など地域に向いたり、講演会など開催したりと地域の拠点となるよう奔走しています。

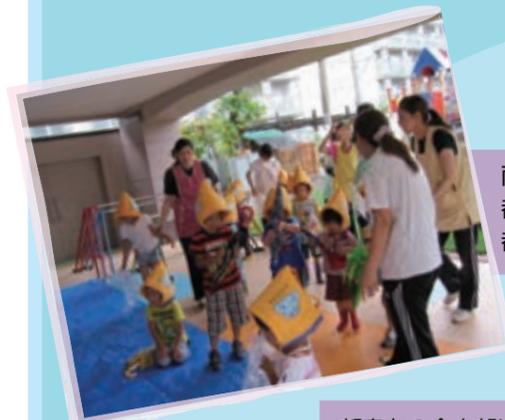


無料相談実施中です。

地域とともに

大地震を想定、都島区が大阪市初の合同防災訓練を実施。都島友の会、各園も参加しました。

8月24日、都島区では「地震vs地域力」をテーマに行政と地域、福祉施設が連携して合同防災訓練が行われ、都島友の会も参加をしました。この訓練は午前9時頃に震度6強の直下型地震が発生したという想定のもと、災害時に自力で避難することが困難な高齢者らの搬送のほか、情報伝達の実効性の検証や災害対策本部のスキルアップ等を目的としたものです。都島友の会では、地域と当法人間の連携を深める情報伝達訓練をはじめ、各保育園で子どもたちの避難訓練、社会福祉施設ひまわりの郷では緊急避難施設として避難所の開設や要援護者をモデルとした搬送の訓練も行いました。また東都島小学校で行われた防災セミナーやワークショップなどにも参加、児童センター本部では後日反省会も行われました。地域と消防署、警察署、社会福祉施設、医師会など区内の関係機関が協力、連携した訓練は大阪市では初めての試みです。



職員間で反省会を行う都島児童センター

雨の中、防災ずきんをかぶり都島児童センターに避難する都島東保育園の子どもたち



都島友の会本部は【災害対策本部】を設け、確認しあう



その時、各園では

乳児センターと第二乳児センターは合同で、保育中、倒壊の恐れのある建物から避難との想定で訓練を実施



東都島小学校では避難訓練をした後、大阪市危機管理室防災アドバイザーによる防災セミナーが行われ、都島東保育園の職員も参加



(写真上) 要介護者をモデルにした搬送訓練 (写真下) ひまわりの郷は緊急避難施設に



ひまわり会バレーボール部



優勝 しました



社会福祉法人都島友の会には、職員で構成されたバレーボールチームがあります。そのチームが、今年8月18日(日)「大阪民間社会福祉事業従事者共済会」主催の施設職員バレーボール大会で優勝しました。優勝です！優勝！！本当に悲願の優勝です。

というのもこの大会は第38回となり、当法人も参加させてもらって30年近くになりますが、いつも良いところまでいき、準優勝6回、ベスト4、ベスト8等と好成績をおさめてきましたが、あと一歩が及ばず毎回悔しい思いをしてきました。

やっと手に入れた金メダル！23名全員で手に入れた金メダルです！！「これが欲しかった！」と胸でキラキラ光るメダルに負けないくらい輝く皆の顔には、今までの悔し涙ではない嬉し涙があふれていました。バレーボールを通じ、一緒に体を動かし汗を流し、心一つにして同じ目標に向かうその過程も宝ですが、やはり結果が出ると嬉しいものです。

続けてきて良かった。つなぎ、つないでこまできました。「継続は力なり」そして、いくつになっても「これぞ青春！」

この大会は、大阪府、大阪市の社会福祉施設従事者の大会で、今年は27チーム341名の参加でした。その内、当法人は2チームで参加。名前は「ひまわり会 MIYAKO」「ひまわり会 SI-MA」で、今回は MIYAKO チームが強敵常連チームに3連勝し、ついに頂点に立つことができました。名門のクラブが多い中、よくぞこまで頑張りました。

～目指せ！大会2連覇！！～

そこには「ひまわりサン、練習においで！」と可愛がってもらい、そして「良かったね！」と、この優勝を共に喜んでもらえる都島区のバレーボールチームのママさんとのつながりがあります。地域に根ざした社会福祉施設、都島友の会のクラブとして、これからもママさんの胸も借りながら、部員一同楽しくバレーボールを続けていきたいと思えます。

そして、



優勝！！みんなで嬉しい記念撮影

念願の金メダル